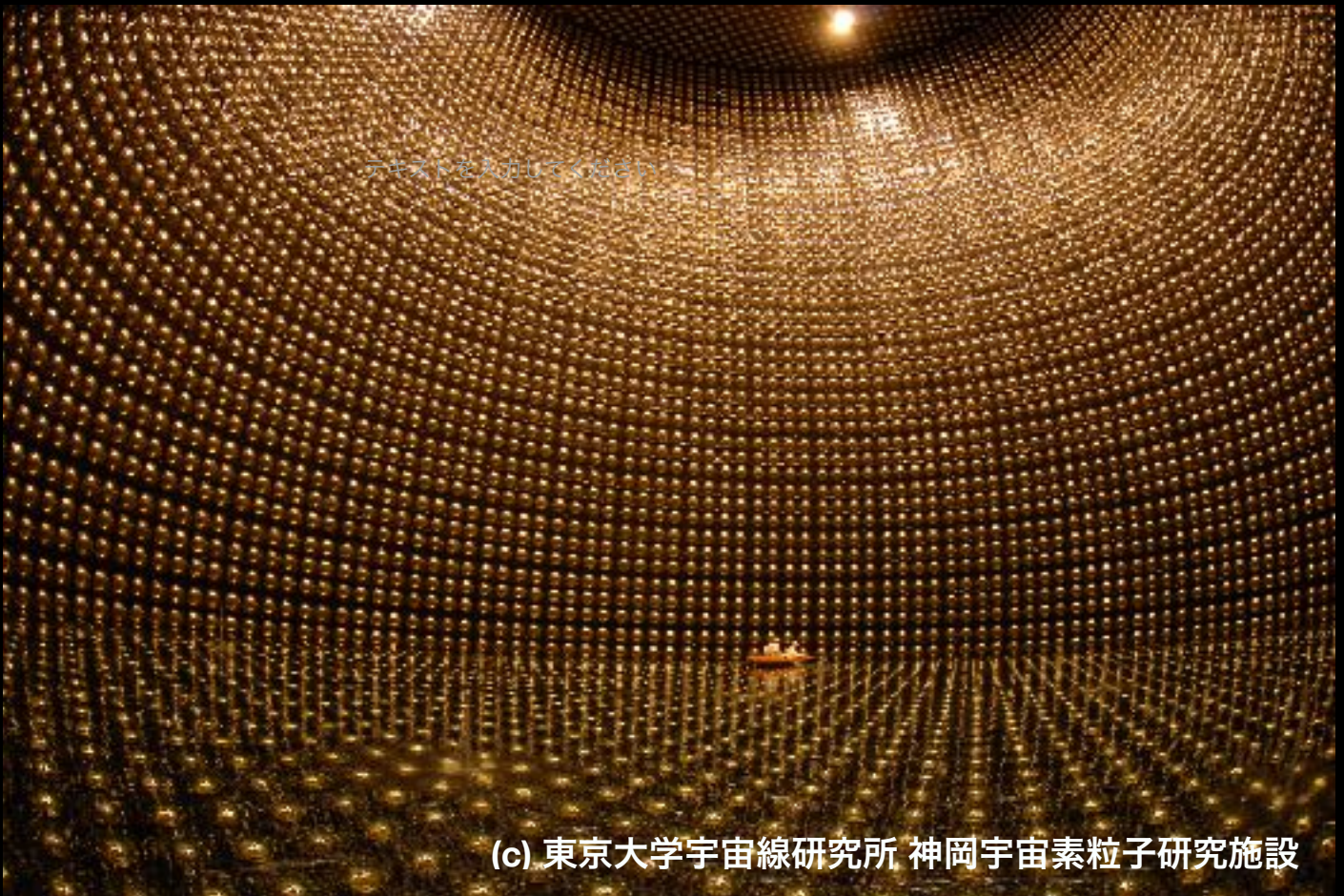




サイエンスカフェ@ふくおか「特別版」

「宇宙の謎に迫る！」

～姿を変えるニュートリノとニュートリノの小さい質量～



(c) 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設

ニュートリノは観測することが難しく、近年までニュートリノには質量がないと思われていました。しかし、宇宙線と呼ばれる宇宙から飛来するエネルギーの高い粒子が大気中でつくるニュートリノを観測し、1998年ニュートリノの種類が飛行中に別な種類のニュートリノに変化するニュートリノ振動という現象が発見され、ニュートリノに小さい質量があることがわかりました。この観測は、岐阜県飛騨市神岡にあるスーパーカミオカンデという巨大な測定器を使ってなされました。本講演ではどのように姿を変えるニュートリノとニュートリノの小さい質量が発見されたのかについてお話しし、そしてその意義などにも触れたいと思います。

<日 時> 平成30年4月15日(日) 16:30~18:30 (16:00開場)

<会 場> ホテルニューオータニ3階 芙蓉の間

<対 象> みなさま ※特に知識などは必要ありません。気軽にご参加下さい

<参加費> 無料

<定 員> 400名 (定員になり次第締め切り)

<主 催> 公益財団法人九州経済調査協会 BIZCOLI

九州大学先端素粒子物理研究センター・九州大学素粒子実験研究室

<協 賛> 九州電力株式会社、株式会社電通九州 <後援> 福岡経済同友会

<講師>

梶田 隆章 教授



1959年、埼玉県東松山市生まれ。物理学者。東京大学卓越教授・特別栄誉教授、東京大学宇宙線研究所長。東京大学理学部附属素粒子物理国際研究センター助手、東京大学宇宙線研究所助手、助教授、教授を経て現職。岐阜県飛騨市の神岡鉱山の地下1000メートルに設置された実験装置「カミオカンデ」と「スーパーカミオカンデ」を使った実験に参加した。最も小さいと考えられる素粒子のひとつのニュートリノについて、地球の大気で生まれた大気ニュートリノを観測。移動中に粒の種類が変わる現象「ニュートリノ振動」を観測してニュートリノに質量があることを発見し、1998年の国際会議で発表した。「ニュートリノ質量の存在を示すニュートリノ振動の発見」により、2015年にノーベル物理学賞を受賞した。1999年に仁科記念賞、2010年に戸塚洋二賞、2012年に日本学士院賞、2015年に文化勲章、文化功労者。現在は、大型低音重力波望遠鏡KAGRAのリーダーも務める。

<お申し込み方法>

下記を記入しFAX（092-721-4908）いただくか、
BIZCOLIのHP（<http://www.bizcoli.jp>）のフォームからお申込ください。

お名前	:	_____
住所	:	_____
電話番号	:	_____
メール	:	_____

<お問合せ先>

- ・お申し込みに関するお問い合わせ
九州経済調査協会・BIZCOLI 担当 瀬口・杉本
福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館3F
電話：092-721-4909 / FAX：092-721-4908
- ・サイエンスカフェに関するお問い合わせ
九州大学素粒子実験研究室 吉岡瑞樹
福岡市西区元岡744
電話：092-802-4057

<アクセス>

西鉄電車：西鉄天神大牟田線「薬院駅」より徒歩5分

西鉄バス：「博多駅前A番」停留所より乗車→「渡辺通1丁目」停留所
降車すぐ
「天神大丸前4C」停留所より乗車→「渡辺通1丁目」停留所
降車すぐ

タクシー：JR博多駅より7分、福岡空港より25分

地下鉄：七隈線「渡辺通駅」降車

